

山口情報芸術センター [YCAM] 教育普及プログラム

コロガル公園 commons

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオ B

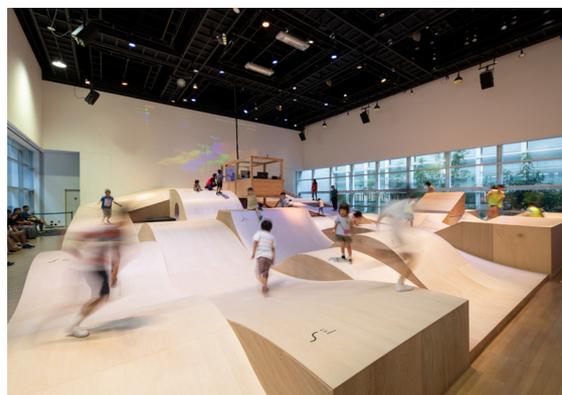
2018年7月21日(土)～10月28日(日) 10:00～18:00

「コロガル公園シリーズ」最新作が登場！

文化として継承・発展させるべき、これからの共有地 (commons) を「公園」から考える

山口情報芸術センター [YCAM] では、メディアテクノロジーを駆使した子ども向けの遊び場「コロガル公園シリーズ」の最新版「コロガル公園 commons」が開催中です。

YCAMは開館以来、メディア・テクノロジーを用いた新しい表現と鑑賞者をつなぎ、好奇心や創造力を刺激する教育プログラムを多数制作し、発表してきました。そのノウハウを活かし開発された子ども向けの遊び場「コロガル公園シリーズ」は、2012年の「コロガル公園」を皮切りに、「コロガルパビリオン」(2013年)や「コロガルガーデン」(2016年)など、新バージョンを発表するたびに好評を博し、東京や札幌、さらに活動に共鳴した海外の文化施設がコロガル公園の派生バージョンを実施するなど、シリーズの理念は着実に広がりつつあります。今回発表する「コロガル公園 commons」では、「コロガル公園」を再現するというアプローチで挑み、子どもたちに新たな遊びの創造を誘発するとともに、シリーズがこれまで与えてきた影響を検証しつつ、文化として継承・発展するための視点を提示します。この機会に是非ご参加ください。



コロガル公園 commons (撮影：山中慎太郎 [Qsyum!])

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター [YCAM]

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: press@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 <http://www.ycam.jp>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

現代に生きる子どもたちのための遊び場環境—コロガル公園シリーズ



「コロガルガーデン」(2016年/撮影:山中慎太郎【Qsyum!】)

YCAMは開館以来、オリジナルワークショップなどの教育プログラムを開発しており、それらを通じてコンピューターやネットワークをはじめとするメディアテクノロジーとの適切な向き合い方や、それを応用することで生まれる新たな表現の可能性に触れる機会を提供してきました。

「コロガル公園シリーズ」は、短時間で終わってしまうワークショップとは別に、長期間に渡って維持される公園のような場を通じて新しい学びの可能性を探るプロジェクトです。2012年の「コロガル公園」を皮切りに、これまでに「コロガルパビリオン」(2013年)や「コロガルガーデン」(2016年)を発表しているほか、山口を飛び出し東京と札幌でも実施しています。

本シリーズはいずれも、改変可能なメディアテクノロジーが埋め込まれた特殊な形状の建築空間を、試行錯誤を繰り返しながら遊びを生み出す場として提案しているのが特徴です。利用者の子どもたちが遊びを通じて自律的にメディアテクノロジーの特性を学び取り、変化の激しい現代社会におけるコミュニティの創造/運営のエッセンスに触れることができます。そのためここでは利用者が自ら公園の保守管理に携わるなど、遊びだけに留まらない営みが多数生まれています。

こうした「模擬的な社会」とも言えるコンセプトと、その支持体としての構造物のデザインが高い評価を受け、コロガル公園シリーズはこれまでにグッドデザイン賞やキッズデザイン賞を受賞しました。

これまでのコロガル公園シリーズ

コロガル公園

展覧会「glitchGROUND—メディアアートセンターから提案する学び場環境」の展示物として発表。

会期：2012年5月19日～8月12日

会場：スタジオB

コロガルパビリオン

YCAMを飛び出し、屋外で展開。会期末には存続運動が勃発し、2014年に再開した。

会期：2013年7月26日～12月1日／2014年8月1日～31日

会場：山口市中央公園

設計：assistant

コロガル公園 in ネイチャー

札幌国際芸術祭の一環で、初の山口県外での開催。

会期：2014年7月19日～9月28日

会場：札幌市資料館裏庭

設計：五十嵐淳建築設計

コロガルガーデン for LIL KIDS

東京での初の開催は、初の未就学児童対応。

会期：2015年4月29日～5月3日

会場：伊勢丹新宿本店本館6階催物場

設計：assistant

コロガルガーデン

2年ぶりのYCAMでの開催は、ホワイエとスタジオBでの同時開催。

会期：2016年6月18日～9月4日

会場：ホワイエ、スタジオB

設計：assistant

継承・発展させるべき、これからの共有地(コモンズ)を「公園」から考える



「公園つくるラボ」の様子(撮影:山中慎太郎 [Qsyum!])

コモンズ

草原、森林、牧草地、漁場などの資源の共同利用地など、多くの人が利用できる共有資源や制度のこと。自然環境や自然資源そのものを指すというよりも、それぞれの環境資源がおかれた諸条件の下で、持続可能な様式で利用・管理・維持するためのルール、制度や組織であると把握されている。近年ではインターネット上においての権利の扱いなどでも盛んに議論されている概念のひとつ。

今回発表する「コロガル公園コモンズ」は、2年ぶりとなる「コロガル公園シリーズ」の最新版です。

今回のテーマは「コモンズ(共有地)」。不定形な床面など、これまでのシリーズの特徴を引き継ぎつつも、「公園」という「コモンズ」を「みんなでつくる」という体験を通じて、自ら考え、他者とコミュニケーションを取りながら共創する力を育むことを目指します。このため、これまでのコロガル公園シリーズで恒例の、子どもたちが公園の新しい機能を検討し、それを実現するイベント「子どもあそび場ミーティング」はもちろん、子どもたちによる共創を加速させる場として新たに「公園つくるラボ」を開設します。「子どもあそび場ミーティング」では、子どもたちのアイデアを実現するのは、YCAMのスタッフでしたが、この「公園つくるラボ」では子どもたちが自らのアイデアを自らの手で実現します。ラボには段ボールをはじめとする素材が用意されており、子どもたち自らが、他の利用者と議論を重ねながら新しい公園のアイデアを実験しながら具体化することができます。子どもたちのアイデアによって、日々変化していく「コロガル公園コモンズ」。終了後は、公園の運営のためのノウハウや建築図面などをインターネット上に公開し、「オープンソースパーク」として発信します。コロガル公園シリーズで生み出された新しい学びのための知の体系を幅広く公開することで、場所にひもづく共有資源としての側面から、より広範な概念へとコロガル公園を発展させていきます。

「コロガル公園シリーズ」実験できるフィールドを支える公園の建築設計―



「つながるブロック」(撮影:山中慎太郎 [Qsyum!])

「コロガル公園 commons」は、これまでのコロガル公園シリーズと同様に波打つような形状の床面が用意されています。これは、2012年に発表した「コロガル公園」をベースに、汎用性や可変性などの観点からアップデートしたものです。アップデート部分は2組の建築家、ASSISTANTの有山宙と慶應義塾大学鳴川肇研究室とYCAMがそれぞれ協働して制作しています。

2013年のコロガルパビリオンから設計に関わっているASSISTANTの有山宙が「slope (スロープ)」を設計しました。公園内をぐるりと取り囲むように設計された緩やかな坂が特徴的で、空間内の一部にある起伏の激しい斜めの構造物とは対象的に、子どもたちのコミュニケーションが活性化されるようにデザインされています。

慶應義塾大学鳴川肇研究室は16個のブロックからなる「つながるブロック」を設計しました。3次元曲面と呼ばれる構造体で、16個のブロックを自由に組み替えることができ、これにより、利用者から要望があれば、遊び場の空間自体も更新することが可能になっています。また、この構造物は、会場の大きさに合わせて、自由に空間を構成することができるので、よりさまざまな会場で展開することが可能になります。

こうした特徴的な構造物の中に、照明やコンピューター、音響機材などのメディアテクノロジーが、子どもたちの感性を刺激する仕掛けとして埋め込まれており、子どもたちは自由な発想でこれらを用いながら、新しい遊びを生み出していきます。

有山宙 / ASSISTANT

東京都生まれ。東京大学工学系研究科建築学修了。

2002年、松原慈、須之内元洋とともに、ASSISTANT(www.withassistant.net)を設立。以来、建築と美術とデザインが交わる点で活動を展開している。

主な仕事に、「おいしく、食べる」の科学展(展示設計、日本科学未来館・2009-2010)、「33年目の家」(建築、2013)、「IT IS A GARDEN」(建築、2016)など。

コロガル公園シリーズでは、2013年のコロガルパビリオンと、2015-16年のコロガルガーデンの設計を担当している。

慶應義塾大学 SFC 鳴川肇研究室

鳴川研ではエンジニアリングを学びながらデザインに取り組みます。エンジニアリングを学ぶ、とは自分のデザインが壊れないかを検証する姿勢や、ネジを締める順序や、“楽して”部材加工する術などの知恵を含みます。

それらの知恵をデザインに還元する道具として幾何学を活用しています。デザインには形があり、その形を操る為に幾何学があります。ただしここで言う幾何学とは、図画工作による数学と鳴川研では捉えています。

このような考えの延長にオーサグラフと名付けた世界地図図法があります。鳴川研ではこの地図を用いて現代世界を視覚化するインフォグラフィックスにも取り組んでいます。

開催概要

コロガル公園 commons

2018年7月21日(土)～10月28日(日) ※火曜休館

10:00～18:00

入場無料

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB

関連イベント「子どもあそびばミーティング」に伴うアップデート作業のため、9月10日～14日は閉場します。

※安全管理のため、会場内の定員を40名としています。定員に達した場合は、入場制限(30分ごとに入れ替え)をおこないます。

主催：山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市教育委員会

機材協力：カラーキネティクス・ジャパン株式会社

共同開発：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]

同時開催イベント

エキソニモ+YCAM共同企画展

「メディアアートの輪廻転生」

ニューヨークを拠点に活躍するアートユニット・エキソニモを共同キュレーターに迎えて開催する展覧会です。

メディアアート作品の新しいエコシステムの提示をテーマに、壊れたメディアアート作品に対して様々なアプローチで解体・転生を試みる展示「メディアアートの墓」を軸に、文化をいかに未来に継承し、次なる創造へと発展させていくのか、そのプロセスを思考する機会の創出を目指します。

2018年7月21日(土)～10月28日(日) 10:00～18:00

会場：ホワイエ

次回の企画展

マーク・テ+YCAM共同企画展

「呼吸する地図たち」

マレーシアを拠点に活躍する演出家のマーク・テを共同キュレーターに迎え開催する展覧会です。

東南アジアと日本のアーティストやリサーチャーたちが、それぞれの視点から幅広い社会的事象を捉え、自身の言葉によって語るレクチャーやレクチャー・パフォーマンス作品を12週にわたり開催するほか、インスタレーション作品も公開し、新たな「地図」を描きだすことを目指します。

2018年12月15日(土)～2019年3月3日(日) 10:00～20:00

会場：ホワイエ、スタジオB